

Takashi AKIYAMA Poster Museum Nagaoka

2013-07-25

APM news 086

秋山孝ポスター美術館 長岡

歴史的建造物・金庫扉と雁木のある美術館 (旧北越銀行宮内支店)

第20回美術館大学 7月6日(土) pm3:00~4:30/受講者:60名/講師:秋山孝

「メッセージイラストレーションポスター十四選

『声なき声を聞く』秋山孝ポスター展5について」



〒940-1106 新潟県長岡市宮内2-10-8
TEL 0258-39-1233



「秋山孝ポスター展5」の展示は、大きく3つに分けられる。1つ目は今回の展示テーマでもあるメッセージイラストレーションポスター、2つ目は2012年から2013年7月までに制作された新作ポスター、3つ目は1985年から1988年までに制作された旧作ポスターである。今回の美術館大学は、これらのポスター作品について秋山館長ご自身から解説していただける貴重な場である。

メッセージイラストレーションポスターは、多摩美術大学イラストレーションスタディーズが開催する展覧会のためのポスターで、2000年の開催から秋山館長によって制作されている。鳥、犬、爆弾、人と、モチーフはそれぞれだが、共通するのは「沈黙の声」や「声なき声」といったポスターからのメッセージを受け取ってほしいという強い主張だ。次に2012年から制作されている新作ポスター24点について。中国上海の松江(ソングジャン)美術館からの依頼で制作されたポスターには、青銅器と文字が描かれている。「現在確認されている最古の王朝 殷」、「最古の漢字 殷王朝第22代武丁の頃の甲骨文字」、そして「殷から春秋時代までが青銅器時代である」という知識がなくてはこのポスターは作られなかった。1985年から1988年のポスターは、なんといっても色が美しい。それはこの年代のポスターがシルクスクリーンで印刷されていたからである。CMYK(シアン、マゼンタ、イエロー、クロ)のインクを掛け合わせて色を表現するオフセット印刷と違い、シルクスクリーン印刷は色を調合してから刷るので、色が濁らず、微妙な風合いの色を表現することができる。

ポスターには、強いメッセージが込められている。しかしポスターを真剣に鑑賞し読み取ろうとする人は少ない。それは、ポスターは消費されるものであるという考えや、ポスターを軽視する日本の現状によるものであろう。また、「読み取る」ことが必要な芸術作品よりも、情報を「与え」てくれる映像やアニメーションの方が接しやすいのかもしれない。しかし「与え」られることばかりしてきた人間は「考える」ことを忘れ、人の意見を鵜呑みにすることしかできなくなると、秋山館長は警鐘を鳴らす。どうか立ち止まって、ポスターの前で「声なき声」に耳を傾けてみてほしい。そこには多くの言葉が満ちているはずである。(APM公式ホームページより抜粋)